追加資料No.2

平成 24 年 2 月 8 日　第 3 回伊豆の国市地域公共交通会議　報告①

会　議　結　果

1　会議等名	実車実験バスに関する説明会（江間地区）
2　開催日時	平成 24 年 2 月 2 日（木）19 時 00 分～20 時 20 分
3　開催場所	江間防災センター2 階
4　出席者	出席者 谷戸 0、仲之台 2、鳥打 4、珍野 1、町屋 4、大北 0、 千代田 26、長塚 0　計 37 名 説明者 伊豆の国市政策企画課　菊地課長、植松、塩谷
5　結果	**■　平成 23 年度実車実験バスの運行結果について** 平成 23 年度実車実験バスの運行結果及び実験運行期間終了後の方針について、資料に基づき説明。 **■　地域住民が主体となった交通サービスへの取組について** 地域住民が主体となった交通サービスへの取組について、市の基本方針を資料に基づき説明するとともに当該地区の取組を促す。 **■　質疑応答** Q：三島市では 100 円バスを運行している。伊豆の国市でも 100 円で運行してはどうか？ A：自主運行バスは地域公共交通会議で運賃を変更可能だが、運賃が安いからといって利用者が増えるかどうかはわからない。今後の見直しの中で検討したい。 自主運行バスは公費を投じて運行しているため、市全体の公平性を考えなければならない。また、収支のバランスも考慮しなければならないので、この地区を運行するバスの運賃だけを安価にすることは難しい。 Q：4 月 1 日以降の運行にはどのくらいの費用がかかるのか？ A：おおむね 900 万円くらいを見込んでいる。 Q：この地区以外にこのようなバスは運行しているのか？ A：韮山の奈古谷地区、大仁の浮橋、長者原地区に運行しているが、こちらのバスは通学利用が主で一般の利用はほとんどないので、朝晩の時間帯のみの運行となっている。 Q：今後の見直しで利用が少ない便は削られていくことになると思う。今後考えていかなければならない問題だと思う

	が、どうしたらよいのかわからない。立花台区で取組を始めたということだが、どのような状況か？ Ａ：立花台区からは以前から巡回バスの要望があったようだが、起伏の激しい地域であること、山間地域と比べると鉄道駅に近いこと、隣の中区には路線バスが運行されていること等から、行政主体で巡回バスを運行することは難しく時間もかかるため、「それならば自分達で運行しよう」ということになった。今のところ、アンケート調査の実施、検討委員会の立ち上げを行っている。費用の面など地域だけでは難しい問題については行政の支援をお願いしたいとのこと。実現までに 2 年間くらいをかけ、巡回バスに限らず、デマンド等いろいろな方法も検討していくとのこと。 Ｑ：4 月 1 日以降の運行案は、どのくらいの期間維持されるのか？見直しの評価基準はこの基準を使用するのか？ Ａ：見直しは概ね 6 か月を周期に行いたい。評価基準も基本的にはこの基準を継続するが、今後、このバスだけでなく、市全体の交通施策の見直しをしたいと考えているので、その時点で変わることも考えられる。 Ｑ：家の前をバスが通るが乗っていない。乗らないバスを運行するということは、その分税金がかかっているということ。運賃を安くしてはどうかという意見もあったが、その分は市が負担することとなる。よく考える必要があると思う。 **→　実車実験バスの運行結果及び4月1日以降の運行について異議等はなかった。** **なお、4 月 1 日以降の運行の詳細については、後日、当該地区に回覧文書を配布する予定。**